

第54回大阪国際フェスティバル2016

# 大阪4大オーケストラの響演

We Love The Osaka Four Orchestras!

## 大阪交響楽団

ストラヴィンスキー  
バレエ音楽「かるた遊び」  
STRAVINSKY: Jeu de cartes

## 大阪フィルハーモニー交響楽団

ラヴェル  
「ダフニスとクロエ」第2組曲  
RAVEL: Daphnis et Chloé Suite No. 2

[指揮]  
井上道義

[指揮]  
外山雄三

## 関西フィルハーモニー管弦楽団

ワーグナー  
楽劇「トリスタンとイゾルデ」より  
前奏曲と愛の死  
WAGNER: "Tristan und Isolde" Vorspiel und Liebestod

## 日本センチュリー交響楽団

ベートーヴェン  
交響曲第5番 ハ短調 作品67「運命」  
BEETHOVEN: Symphony No. 5 in C Minor, Op. 67

[指揮]  
飯森範親

[指揮]  
飯守泰次郎

4月はフェスティバルホールで「4オケ」を聴こう!  
「4オケ」フェスティバルホールに再び集結!!

2016 **4.24 (日)** 16:40プレトーク 17:00開演  
フェスティバルホール (16:00開場 19:30終演予定)

S席8,000円 A席6,000円 BOX席11,000円 バルコニーBOX席(2席セット) 16,000円 [全席指定(消費税込み)] ※バルコニーBOX席はフェスティバルホール チケットセンター(電話予約)のみの販売

チケット一般発売日	フェスティバルホール クラブ会員 先行受付開始	2015 11/28(土) 10:00-
2015 12/13(日) 10:00-	フェスティバルホール オンライン会員 先行受付開始	2015 12/5(土) 10:00-
大阪フィル・チケットセンター会員予約受付開始		2015 12/1(火) 10:00-
大阪交響楽団会員予約受付開始		
関西フィルハーモニー管弦楽団会員予約受付開始	※各オーケストラの一般発売は 12月14日(月)より	
センチュリー・チケットサービス会員予約受付開始		

ご予約のお問合せ

ガイド

- フェスティバルホール チケットセンター 06-6231-2221 (10:00~18:00) ※窓口での取扱は12月14日(月)より(ただし、残券がある場合のみ)
- フェスティバルホール オンラインチケット(要事前登録) <http://www.festivalhall.jp/> (PC・携帯共通)
- 大阪フィル・チケットセンター 06-6656-4890 (平日10:00~18:00 土曜日10:00~13:00 日祝休み) <http://www.osaka-phil.com/>
- 大阪交響楽団 072-226-5522 (平日10:00~17:00) ●関西フィルハーモニー管弦楽団 06-6577-1381 (平日10:00~17:00 土曜日10:00~16:00 日祝休み)
- センチュリー・チケットサービス 06-6868-0591 (平日10:00~18:00) <http://www.century-orchestra.jp/ticket/>
- キョードーチケットセンター (オペレーター対応) 0570-08-9910 (2015 12/12(土) 18:00まで) 0570-08-9970 (2015 12/13(日) 10:00より) <http://www.kyodo-osaka.co.jp/oif/>
- e+ (イープラス) <http://eplus.jp/> ●チケットぴあ 0570-02-9999 [コード 278-626] <http://t.pia.jp/>
- ローソンチケット 0570-000-407 (オペレーター対応) 0570-084-005 [Lコード 59660] <http://l-tike.com/>
- CNプレイガイド 0570-08-9990 <http://cn.cn.jp/>

主催: 朝日新聞文化財団、朝日新聞社、大阪国際フェスティバル協会、大阪交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、日本センチュリー交響楽団  
協賛: 朝日放送、京阪電気鉄道、サントリーホールディングス、高砂熱学工業、竹中工務店、阪神電気鉄道  
協力: フェスティバルホール

※各オーケストラに直接お申し込みください

コンサートの前後に  
楽しい2つの企画  
詳細はこのチラシ裏面に!

- 開演前の16:40より4指揮者によるプレトークを開催します。
- 終演後にお客様全員が参加出来るプレゼント企画があります。参加申込は不要。終演後、ほんの少しだけホールに残って下さい!

※やむを得ない事情により曲目、出演者等が一部変更になる場合がございます。公演中止の場合を除き、チケットの変更・払い戻しはできません。予めご了承ください。  
※未就学児のご入場はご遠慮ください。



## 外山 雄三(ミュージック・アドバイザー 2016年4月より)

大阪の4つのオーケストラが同じ舞台上の音を削って演奏をするという企画は、オーケストラにとってもお客様にとっても刺激的な企画で、大阪の音楽界を牽引されてきた大阪国際フェスティバルならではのアイデアと歓迎しております。また、4人の指揮者が比較される場でもあるので、大阪交響楽団との演奏が少しでもお客様の印象に残る様、気を引き締めて演奏に臨みたいと思っております。

1931年東京生まれ。東京音楽学校(現在の東京芸術大学)で作曲を学び、在学中、第20回音楽コンクールに入賞。1952年卒業と同時にN響に打楽器練習員として入団。1954年には指揮研究員となり、1956年9月にN響を指揮してデビュー、以来各オーケストラに数多く客演を開始。1958~60年にかけてウィーンに留学。1960年N響の世界一周演奏旅行に同行、指揮者としてばかりでなく自作の「管弦楽のためのラプソディー」によって作曲家としてもその名をひろめた。これまでに大阪フィル、京都市響、名古屋フィル、神奈川フィル、仙台フィルの要職を歴任。作曲家としてはオペラ、交響曲、室内楽曲、歌曲、合唱曲まで多岐にわたる作品を残している。1963年、2000年尾高賞、1981年有馬賞、1983年サントリー音楽賞、1999年文部大臣表彰、2010年度日本放送協会放送文化賞を受賞。現在、NHK交響楽団正指揮者。

オフィシャル・ホームページ <http://www.yuzo-toyama.com/>

## 大阪交響楽団

1980年創立。永久名誉楽団代表・敷島博子が「聴くものも、演奏するものも満足できる音楽を!」をモットーに提唱。いつも聴衆を「熱く」感動させるその演奏は、「魂の叫び」「情熱の音」であると評されている。音楽監督・首席指揮者 児玉宏、常任指揮者 寺岡清高。知られざる名曲に光をあてるディスカヴァリー・クラシックシリーズなど、斬新で意欲的なプログラムは大きな注目を集めている。



オフィシャル・ホームページ <http://sym.jp/>



## 井上 道義(首席指揮者)

「フェスティバル」の名に恥じない一夜になるだろうこの日。4つのオーケストラが生き残りをかけて!競う「戦い」は平和の中でこそ出来る「祭り」。ただしスポーツと違い、この世界は点数で勝ち負けが決まることはない。拍手の大きさが決まるでもない。人気だけかかってもない。大事なものは、それでも「判る人には判る」世界であることを忘れない事だ。僕は何としても心身ともに健康であることに腐心します。

1946年東京生まれ。桐朋学園大学卒業。1971年グイド・カンテルリ指揮者コンクールに優勝。ニュージーランド国立交響楽団首席客演指揮者、新日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督、京都市交響楽団音楽監督兼常任指揮者を歴任。2007年ショスタコフヴィチ交響曲全曲演奏プロジェクト、および2013年サンクトペテルブルク交響楽団日本ツアーを企画立案、音楽・企画の両面で大きな成功を収めた。2007年よりオーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督、ならびに石川県立音楽堂アーティストティック・アドバイザーを務め、ラ・フォル・ジュルネ金沢を含む多くの実験的企画を敢行し続けている。2014年4月、大阪フィルハーモニー交響楽団の首席指揮者に就任。就任披露演奏会直後、病に倒れるが同年10月に復帰を遂げる。自宅にアヒルを飼っていた。

オフィシャル・ホームページ <http://www.michiyoshi-inoue.com/>

## 大阪フィルハーモニー交響楽団

1947年朝比奈隆を中心に「関西交響楽団」という名称で生まれ、1950年社団法人化、1960年に改組、現在の名称になった。創立から2001年までの55年間朝比奈隆が常任指揮者・音楽総監督を務めた。大植英次の後を受け、2014年4月より井上道義が首席指揮者に就任。定期演奏会をフェスティバルホールで行うほか、全国各地で演奏活動を展開している。



オフィシャル・ホームページ <http://www.osaka-phil.com/>



## 飯守 泰次郎(桂冠名誉指揮者)

4つのオーケストラが一堂に会するとは、大変素晴らしい、スケールの大きいプロジェクトです。想像もしなかった大胆な発想で、さすが大阪だと思います。また、指揮者というものは、1つのコンサートに1人いれば事足りるので、お互いに顔を合わせるということがまずありません。今回のような奇想天外な企画があってこそ、可能なことです。ケンカさえしなければ、素晴らしいコンサートになるでしょう!本当に楽しみです。

現在、新国立劇場オペラ部門芸術監督、東京シティ・フィルおよび関西フィルの桂冠名誉指揮者を務める飯守泰次郎は、桐朋学園で学んだ後、ヨーロッパで研鑽を積み、マンハイム市立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場などの指揮者を歴任。90年代より国内での活動を再び活発化させ、名古屋フィル、東京シティ・フィル、関西フィル各常任指揮者を歴任。これまでに、2000年度第32回サントリー音楽賞、2004年11月紫綬褒章、2008年第43回大阪府市民表彰、2010年11月旭日小綬賞、2012年度日本芸術院賞、2014年度第56回毎日芸術賞などを受ける。また、2012年度の文化功労者に選ばれ、2014年12月には日本芸術院会員に選ばれた。

オフィシャル・ホームページ <http://www.taijiroiimori.com/>

## 関西フィルハーモニー管弦楽団

1970年発足。2003年NPO法人化、2014年認定NPO法人化。関西を代表する楽団の一つ。世界的ヴァイオリニストでもあるオーギュスタン・デュメイは08年より首席客演指揮者を務め、11年より楽団史上初の音楽監督に就任。藤岡幸夫は00年より正指揮者を務め、07年より首席指揮者に就任。飯守泰次郎は01年より常任指揮者を務め、11年桂冠名誉指揮者に就任。2014年10月よりスタートしたBSジャパンの音楽番組「エンターミュージック」に藤岡幸夫と共に出演中。2015年5月から6月にかけては、スイス・ドイツ・イタリアの3国5都市を巡る楽団初のヨーロッパツアー(合計5公演)を開催し、各地で大きな注目を集めた。



オフィシャル・ホームページ <http://www.kansai-phil.jp/>



## 飯森 範親(首席指揮者)

在阪の4つのオーケストラによる画期的なこのコンサートが今回も開催されること、大変嬉しく思っております。各オーケストラが刺激を与え合い切磋琢磨する。関西の音楽シーンは更に変革を遂げようとしているのではないのでしょうか。一つ一つのコンサートを120%の力を発揮して演奏する、日本センチュリー交響楽団の機能性と美しいオーケストラサウンドは日々進化し続けています。大きな盛り上がりを見せる大阪の音楽界、4大オーケストラによる響演にご注目ください!

桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリン、ミュンヘンで研鑽を積み、これまでにフランクフルト放送響、ケルン放送響、チェコ・フィル、モスクワ放送響等に客演。2001年、ドイツ・ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団音楽総監督(GMD)に着任し、ベートーヴェンの交響曲全集を録音するとともに、日本ツアーを成功に導いた。国内では1994年以来、東京交響楽団と密接な関係が続け、現在は正指揮者。2003年、NHK交響楽団定期演奏会にマーラーの交響曲第1番でデビュー。2006年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞、2007年より山形交響楽団音楽監督、2014年より日本センチュリー交響楽団首席指揮者に就任し、そのエネルギー活動は高い評価を受けている。

オフィシャル・ホームページ <http://www.iimori-norichika.com/>

## 日本センチュリー交響楽団

日本センチュリー交響楽団は1989年に活動を開始し、創立25周年を迎えた2014年度には首席指揮者に飯森範親を、首席客演指揮者にアラン・プリバエフを迎え新たなスタートを切った。2015年度はアーティスト・イン・レジデンスに小山実穂恵を迎え、シンフォニー定期演奏会の金曜・土曜2回連続公演や、ハイドンの交響曲を全曲演奏・録音する「ハイドンマラソン」などにチャレンジしてきた。2016年度は「エンジョイ・センチュリー・シリーズ」と題し、ジャンルを超えた新たな形態のコンサートを実施。同年秋からは大阪府豊中市に完成予定の豊中市立文化芸術センターの指定管理事業に携わり、豊中市の文化芸術の発展に尽力する。



オフィシャル・ホームページ <http://www.century-orchestra.jp/>

コンサートの前後に楽しい2つの企画

### ■「プレトーク」

開演前の16時40分より、出演4指揮者による「プレトーク」を開催します。外山雄三、井上道義、飯守泰次郎、飯森範親がフェスティバルホールの舞台上で公演の聴きどころや、この公演にけるそれぞれの熱い想いなどをおおいに語ります!

### ■プレゼント企画:4オケを聴いて4オケを当てよう!

終演後にフェスティバルホールの舞台上で公開抽選を行います。4つのオーケストラが2016年5月から10月にかけて開催する定期演奏会(各1公演、計4公演)のペア招待券を、最後までコンサートをお聴きいただいたお客様の中から4名様にプレゼントします。事前の参加登録は一切不要。チケットをご購入の上、終演時に客席にいらっしゃることが参加の条件です。